

ORANGE



ICEBUCKS ARENA



ここから世界で活躍する
プロトレーナーを輩出します。

純白の氷上をオレンジのユニフォームが行き交い、激しいクラッシュ音が場内に響く。ここ栃木県立日光霧降アイスアリーナでは、日本初のプロアイスホッケーチーム・H.C.栃木日光アイスバックスが、翌日の試合に向けた練習に励んでいます。そのリンク脇には、選手の動きを真剣に追う学生たちの姿がありました。宇都宮にキャンパスを構える帝京大学医療技術学部柔道整復学科のトレーナー課程で学ぶ5名が、お揃いのトレーニングウェアをまとい、プロトレーナーのアシスタントとして、何度も水を汲んだり、ケア用品を用意したりと終始動き続けています。

柔道整復学というのは、整骨院などで馴染みのある方も多い、骨折や捻挫などを治療する柔道整復師を育てる学問。帝京大学では昨年度より、日本体育協会公認のアスレティックトレーナー受験資格を取得できる課程が、柔道整復学科に加わりました。将来トレーナーを目指す2年生の小林由香さんは毎回2時間をかけて、このアリーナに通います。「この実習は希望者のみの自主的な活動なのですが、プロの現場に触れられるまたとないチャンスなので、欠かさず参加していま

す」。同級生の菊地彩香さんは「プロ選手とプロトレーナーの関係は、ひとつのミスも許されない厳しい世界。今の自分ができることは少ないですが、間近に見るだけですごく勉強になります」と意気込みを話してくれました。

学生にとって将来の夢の一部である貴重な体験の機会を支えているのは、日光アイスバックスのトレーニングサポートを担当する帝京大学の長畑芳仁先生の存在。スポーツ生理学やトレーニング科学を学び、長く社会人ラグビー部で選手の能力を引き出すストレンジスコッチを務め、厚い信頼を寄せられる人物です。「トレーナーにとって大切なのは、選手一人ひとりをもっと強くしたいという純粹な思い。そこから全力で尽くす姿勢が生まれるものなんです。学生は、まずプロの選手に対して何もできない自分に気づくところから始まり、その中で勉強の必要性を感じ、次第に本気になっていく。この実習は、そんなきっかけづくりでもあるんです」と話してくれました。帝京大学はトレーナーと柔道整復師の勉強を両立するうえで、非常に恵まれた環境。それは地域密着を活動理念にしているプロチームが近くに存在することが大きいようです。これからますます盛り上がる日本の、世界のスポーツ界で活躍する、志の高い人材が育っています。